

## [022] ICER Newsletter

<https://doi.org/10.15017/1807765>

---

出版情報 : ICER Newsletter. 22, pp.1-, 2016-08. 九州大学附属図書館付設教材開発センター  
バージョン :  
権利関係 :

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

# ICER Newsletter

## JMOOC 第4弾「味と匂いの科学技術」が今秋開講します！

9月23日～10月21日まで開講 受講生募集中！ JMOOC ▶ <http://www.jmooc.jp/>



教材開発センターでは、只今、九州大学味覚・嗅覚センサ研究開発センター長の都甲潔教授による JMOOC 第4弾「味と匂いの科学技術」の制作にチームが一丸となり取り組んでいます。本講座は、全世界の学習者に向けて、今年秋に開講予定です。「味や味覚を測り、定量化することができるのでしょうか。」都甲先生が、この疑問に明快に、わかりやすくお答えします。

都甲先生は、1989年から味覚と嗅覚で感じる味と匂いの定量化のご研究をなさり、画期的な「味を測る装置である味覚センサ」を開発し、特許を出願されました。この技術は、新食品の開発や苦くない薬などの医療等、様々な分野に応用がされています。また、「匂いの数値化」の研究開発も進み、実用化が行なわれています。このような最新のテクノロジーの研究と応用について、テレビ出演や出版等のマスメディアの経験が豊富な都甲先生が、学習者が理解をしやすいように視聴覚教材としての MOOC に工夫を凝らし、楽しい講義を提供してください。第1週は「味を測る科学技術」、第2週は「味覚センサの特性と応用事例」、第3週は「匂いセンサとその他の話題」の3週間の講座です。日本が産んだ最新の食文化の科学技術を理解するまたとない機会です。

なお本講座は、九州大学の良質な講義を世界の学習者に受講いただけるよう日本語と英語のダブル字幕を装備します。国内はもちろん、海外からの積極的な参加をお待ちしています！

【安西 弥生 准教授】

講座名：「味と匂いの科学技術」

講師：都甲 潔 教授

(九州大学 システム情報科学研究院、  
味覚・嗅覚センサ研究開発センター)

開講期間：2016年9月23日～2016年10月21日

受講料：無料 ※要事前登録



### ユネスコ会議：International Congress on ICT in Education (ICTの教育利用)

ユネスコと中国政府教育機関等が主催した標記会議がチンタオ(中国)で6月22日～24日に開催され、世界各国の UNESCO 及び教育・政府関係者 500 名が招待され、OER/ MOOCs について熱心な議論が行なわれました。この会議で、安西准教授が九州大学の MOOCs がどのようにグローバルな生涯教育に役立っているかと、MOOCs の英語利用の研究について紹介をしました。

## MOOC 撮影こぼれ話



「味と匂いの科学技術」は、教材開発センタースタジオが伊都に移転してからの MOOC 第1弾になります。これまでの MOOC の講義ビデオは、スタジオでは先生のみを収録していましたが、今回は新たな試みとして、スライドを表示した大型モニターの前で先生に講義していただく収録方法とし、臨場感のある講義を目指しました。また、スタジオ内に味覚センサや匂いセンサをお持ちいただき、センサが動いている様子も撮影させていただきました。収録期間はこれまでの MOOC で最短となり、都甲先生のバイタリティーに、制作スタッフ一同感嘆しました。

都甲先生の講義はユーモアにあふれていますが、その内容は、ヒトの感覚とは何か、それを測るとはどういうことかについて考える、奥深いものです。講義ビデオを皆様にお届けするのが楽しみです。



【谷澤 亜里 助教】



## M2B事務局からのお知らせ

### BookLooper で閲覧できる資料を募集します

BookLooper に登録された資料は、九州大学の教職員・学生に限定して公開し、教材や研究発表の資料を九州大学の知として共有され、学生が自主的に学ぶ事を促進します。



また、資料は閲覧のみ可能で、ダウンロードや文面コピーは出来ないことから、不正に流出することを避けることができ、教員は提供した資料を、どのようなユーザーが閲覧したか把握することが出来ます。資料公開をご希望される方は、下記までご連絡ください。

**【募集対象】** ◎ 前期授業で使用した教材・スライド  
◎ 研究発表済みのスライド

**【問い合わせ】** E-mail : [m2b-office@artsci.kyushu-u.ac.jp](mailto:m2b-office@artsci.kyushu-u.ac.jp)

【緒方 広明 教授 (協力教員)】

### みつば M2B 学習支援システム講習会を開催します

Moodle でのアンケート作成と活用方法、レポート提出・受取り方法、出欠の取り方、Mahara と Booklooper の活用方法など実践演習を中心に行います。

実践  
演習

9.5. Mon.

箱崎キャンパス 10:00-11:15 中央図書館 新館 4階会議室  
※ PC をご持参ください

馬出キャンパス 14:30-15:45 総合研究棟 2階 ITルーム  
※ 備え付けの PC があります

9.6. Tue.

大橋キャンパス 10:00-11:15 芸工図書館 1階 アクティブラーニングスペース  
※ PC をご持参ください

筑紫キャンパス 13:30-14:45 C-CUBE 2階 Eミーティングルーム  
※ PC をご持参ください

9.8. Thu.

伊都キャンパス 15:00-16:15 センター 3号館 3105, 3106  
※ PC をご持参ください

参加申込 ▶ [http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics\\_20160719](http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20160719)

※対象は本学に在籍する教職員及び TA、上記 5 回とも同じ内容になります。

### 次世代の教材開発を支える技術 ~デスクトップ型ナチュラル ユーザーインターフェイス~

今回は、デスクトップ型ナチュラルユーザーインターフェイスの「Intel RealSense」(以下、RealSense)の紹介です。このコーナーでは、以前ナチュラルユーザーインターフェイス(以下、NUI)として「Kinect」を紹介しましたが、今回はデスクトップ型の NUI を紹介します。動作原理としては、Kinect と同様で、RGB カメラと赤外線を利用し、距離を測定することで人の動作を認識します。



Kinect は全身の動きを認識するのに非常に優れていますが、カメラとの距離が近い場合は認識が難しくなります。逆に、RealSense は、全身を撮るようなカメラから遠い距離での認識は難しいのですが、近い距離の場合は非常に認識に優れています。動作の認識以外にも、Face Tracking や Eye Tracking など、細かい部分に関しても認識が可能です。

RealSense を活用して教材資料を制作してみたい方がいらっしゃいましたら、是非私達と一緒に共同研究をしてみませんか。

※ 6/1 付けでサイバーセキュリティセンターの准教授に着任し、教材開発センターの協力教員に所属が変更いたしました。

【金子 晃介 准教授 (協力教員)】

▼教材開発センターでは、下記の機材を貸し出しています。先生方の講義・研究資料の作成や講義の収録・配信にお使いください。

#### ~教材開発支援機材システムの貸し出しについて~

お問い合わせ、お申込みフォームはこちらから

▶ [http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast\\_use\\_apply](http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply)

- ① デジタル顕微鏡 ② 光学式モーションキャプチャー装置 ③ 3D スキャナー  
④ 3D プリンター ⑤ ハイスピードカメラ ⑥ 視線追尾装置 ⑦ 講義収録配信システム

### 新中央図書館へ移転しました

7月末に教材開発センターのオフィスが、伊都地区イーストゾーンで現在建設中の新中央図書館(国際化拠点図書館)へ移転しました。今までは各キャンパスに分かれて業務を行っていましたが、今回の移転によりメンバーが伊都地区に集結し、より効率的に業務を行うことができるようになりました。

今後も更に充実した教材を開発し、多くの方々に公開することで九州大学の魅力を世界に発信するだけでなく、学習者のニーズに合った様々な教材を提供するという当センターが掲げる目標は変わりありません。そのために、講義等の撮影や公開、電子教材の開発、MOOCコンテンツの製作、各種講習会の開催などの活動を今まで以上に積極的に行っていきたいと思えます。

上記の活動についてのご依頼やご相談など、お気軽にお問い合わせください。

【森 淳也(テクニカルスタッフ)】



▲新中央図書館は平成30年10月全面開館予定